

中部大会速報

3 福井県 県立奥越明成高校

発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月24日

作品名

ノー・ニユークス

安全であることが一番

原発の危険性を高校生が訴える

演出について

この劇では、舞台装置を使わず全てパントマイムで演じられていた。船の形をキープしながら動くため、針金と新聞紙を使って船を造り練習した。AKAGURU号を起す時などの揃える動きが多いため、合わせることに難しく、時間をかけ練習を重ねた。

船での雰囲気や脚本の設定をより感じるため実際に遊覧船に乗ったり、船から灯台や発電所を見たりした。また、船の操作につい

ては動画を見て勉強した。

本番演じてみると、練習とは違って目印がなく、舞台も広く感じ緊張しながら演じた。

ここだけの話

本番一週間前に喉や足を傷める役者が出るというトラブルが起きた。しかし、本番ではハプニングは起こらず、無事に終わることができた。

ハプニングはなかったが、県大会と比べ観客の人数が遙かに多く、役者曰は



序盤、ダンスの場面。

く、「ドキドキした。終わったらホッとした。」とのことだった。

照明について

灯台の光を一人ひとりの顔が見えるように動かし、それに加えて、光を上手から下手へ動かすスピードに気を付けた。



ラスト、合唱の場面。

衣装について

キャラクターの個々の設定に合わせて決めた。例えば志乃は海賊に憧れているためTシャツの背面にドクロマークがプリントされていたり、舞には会社の名前入りのポロシャツを作った。

編集後記

特別な舞台装置を使わずにパントマイムを使って行った劇をしたのは良かった。また衣装にも注目し、水着を着たというのが凄く発想だと思った。心に訴えかけてくる事がたくさんあった。劇中には、「安全な所だと思っても本当は安全ではないかもしれない」という台詞があり、この時、東日本大震災による福島第一原発事故で大きく取り上げられていた原発の安全性が思い起こされた。劇を通し、原発の安全性や、戦争についても考える機会となった。

（担当）松川、北形、中川、藪下